

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全										
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避										
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等
父島列島	父島	①乾性低木林、ムニンヒメツバキ林、湿性高木林等の在来植生を修復する。	・東平一帯の乾性低木林 ・島の中央部～南部のムニンヒメツバキ林 ・モクダチバナヤウドノキを含む湿性高木林 ・ウチダシクロキ、コバトベラ、ムニンボタン、アサヒエビネ等の固有植物	・モクマオウ、アカギ、ギンネム、リュウキュウマツ、キバンジロウ等の外来植物 ・ノヤギ ・クマネズミ	・ノヤギ根絶に向けた計画的な排除の実施	父-1	・ICT技術を活用した排除作業の実施	東京都	B	・駆除圧を高めて実施中。 ・生息個体数は、減少傾向にあるが、効率化を図るため戦略会議を通じて専門家の意見を取り入れながら実施。
					・東平ノヤギ侵入防止柵内におけるノヤギの根絶、排除された環境の維持 ・島内に生育する国内希少野生植物の維持、回復	父-2	・植物園等における系統保存の継続 ・希少植物保護増殖事業計画に基づく ①生育状況調査 ②生育環境の維持 ③播種などによる株数の維持・増加 ・希少植物を被陰している外来植物の排除 ・ノヤギ侵入防止柵の維持管理 ・ノヤギ侵入防止柵内に侵入した個体の排除 ・希少植物へのネズミ被害防止対策の実施	環境省	B	・2019年以降の台風で破損した柵の復旧工事を2023年度までに実施済み。ノヤギ排除事業を実施し柵内の残存個体は2頭。 ・希少植物をネット等で囲い込みネズミによる食害を防止。 ・希少植物の保護増殖事業として域外保全を継続（系統保存） ・ムニンボタン等の生育地での外来植物駆除を実施
					・東平地区を優先して合計50ha程度の範囲の外来樹木の排除を実施	父-3	・東平地区のモクマオウ、リュウキュウマツ、アカギ等の排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施
					・東平地区を優先して合計50ha程度の所有地の外来樹木の排除を実施	父-4	・モクマオウ、リュウキュウマツ、アカギ、キバンジロウ、シチヘンゲ等の排除	東京都	A	・中山峠・宮之浜はメンテナンス継続。 ・東平周辺を対象に継続実施。
					・民間団体などと協働・連携して小笠原固有の森林への修復	父-5	・民間団体と協定（村民の森）を結び、植生調査、外来植物の排除、在来植物の植栽等を実施	林野庁	A	・植生調査、外来植物の駆除、在来植物の植栽等を実施
					・指定ルート上の外来種の拡散防止	父-6	・指定ルート等の入口に外来種除去装置の設置、管理 ・指定ルート沿いの外来種の排除を状況に合わせ適宜実施	林野庁	A	・外来種除去装置の維持管理。 ・指定ルート沿いの外来種駆除の実施。
					・希少野生植物の個体数及び生育状況の把握と良好な生育環境の確保	父-7	・現存する個体のモニタリング ・希少野生植物を被圧している周辺植物の剪定等による光環境改善等の生育環境の整備等	林野庁	A	・現存する個体のモニタリングを継続。 ・光環境改善のため周辺植物の剪定を実施。
					・父島産オガサワラグワの野生復帰・定着	父-8	・野生復帰個体周辺での外来種の排除 ・植栽株等の情報の取りまとめ	林野庁	B	・連珠谷へ植栽したオガサワラグワ周辺の外来植物の排除およびネズミ対策を実施。
					・父島全島に繁茂した外来植物対策の方針整理	父-9	・父島全島に繁茂した外来植物対策の方針について検討	環境省★ 林野庁 東京都 小笠原村	A	・生態系保護地域修復計画の作成 ・父島東平から駆除を実施。
	②固有陸産貝類の個体群再生を目指す。	・巽崎のチヂジマカタマイマイやアナカタマイマイ ・エリマキガイやノミガイ類等の小型・微小な固有陸産貝類	・ニューギニアヤリガタリクウズムシ ・カタマイマイ類の累代飼育による系統保存を図る ・補強、再導入事業の拡大 ・屋外飼育技術の確立 ・カタマイマイ類の動物園等における生息域外保全個体の増加	・ニューギニアヤリガタリクウズムシの低密度化手法の技術開発	父-10	・固有陸産貝類生息状況の継続調査 ・ブラナリアの効果的な排除方法、低密度化の技術開発	環境省	B	・環境省の競争的研究資金により、ブラナリアの低密度化技術の確立に向けた取組を2024年度から開始。	
				・室内における累代飼育の継続、飼育個体の遺伝情報解析 ・屋外飼育施設の設置、改良 ・補強、再導入等の検討	父-11	・環境省	B	・父島の室内で累代飼育した個体を用い、2020年度から巽島、2023年度から南島で、それぞれカタマイマイ属2種の補強・再導入を実施。		
				・リスク分散のため複数の都立動物園等で累代飼育を行い、種の系統保存及び技術継承を図る。	父-12	・環境省	A	・2017年より東京都立の4園、2024年よりすみだ水族館にて、カタマイマイ属の飼育繁殖を開始 ・12月に小笠原にて飼育担当向けの講習を実施		
	③固有昆虫類の生息地を保全する。	・衛立山周辺のヒメカタソウムシ類 ・チヂジマツチヒメカタソウムシ ・東平周辺のオガサワラコバネカミキリ父島亜種等 ・オガサワラクマバチ等の訪花性昆虫	・グリーンアノール ・オオヒキガエル ・外来リクヒコムシ	-	-	-	-	-		

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全										
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避										
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等
父島列島	父島	④アカガシラカラスバト等の鳥類やオガサワラオオコウモリの生息地を保全するとともに、他の地域の取組と併せて安定的な生息を目指す。	・アカガシラカラスバト ・オガサワラノスリ ・オガサワラオオコウモリ	・ノネコ ・バードストライク、農地等での絡まり事故等の人の社会活動との軋轢	・アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリを小笠原諸島全体で安定的な個体数まで増加	父-13	・アカガシラカラスバト個体数推定方法及び評価方法の検討 ・アカガシラカラスバト保護増殖事業計画に基づく生息状況の把握 ・オガサワラオオコウモリ保護増殖事業計画に基づく生息状況の把握 ・山間地におけるノネコの捕獲 ・ノネコ捕獲技術の向上 ・ノネコ以外のアカガシラカラスバト減少要因の把握、対応の検討 ・東平アカガシラカラスバトサンクチュアリー内の維持管理	環境省 林野庁	A	・捕獲努力量（のべ罨日）の増加によりノネコのリバウンドをとめ、再度減少傾向となっている。 ・アカガシラカラスバト生息地の各種環境調査、外来植物の駆除、外来動物の調査、自然観察会等を実施 ・オガサワラオオコウモリの生息状況とねぐら域に関するモニタリングを実施した。 ・オガサワラオオコウモリの事故防止のため、継続して、文化庁、東京都、村の補助金による硬質樹脂性ネットを用いた防除施設の普及事業を実施 ・東平アカガシラカラスバトサンクチュアリー内の指定ルート内の維持管理及び外来植物の駆除を実施。
						父-14	・外来植物排除、在来種の植栽等による在来植生の回復	環境省★ 林野庁 東京都	B	・父島の乾性低木林の代表的箇所である東平を重点的に駆除を実施している。
						父-15	・傷病鳥獣対応	東京都	A	・傷病鳥獣の保護を行う東京都鳥獣保護管理員を配置するとともに、保護した個体の一時飼養を実施。
						父-16	・集落・農地におけるノネコの捕獲	小笠原村	A	・山城から集落・農地に流入したノネコが定着する恐れがある場合は適宜カゴわなを設置し捕獲
						父-17	・リスク分散のため複数の都立動物園で累代飼育を行い、種の系統保存及び技術継承を図る。	東京都	A	・繁殖の取組みと飼育技術向上を継続中。
	⑤固有陸水動物の生息地を保全する。	・オガサワラヨシノボリやヒラマキガイ科の未記載種等の固有陸水動物	・ヌノメカワニナ等	-	-	-	-	-	-	
	巽島	①固有陸産貝類の生息地を保全するとともに、個体群再生を目指す。	・モモタマナ林をはじめとする在来林 ・チヂジマカタマイマイやアナカタマイマイ等の固有陸産貝類	・クマネズミ ・貝食性プラナリア（未侵入）	・巽島全体における固有陸産貝類の生息地の保全	巽-1	・固有陸産貝類の生息状況調査 ・ベイトステーションの設置等によるクマネズミの超低密度状態の維持 ・クマネズミの生息状況調査	環境省	A	・固有陸産貝類の生息状況調査を実施 ・ベイトステーションの設置及び殺鼠剤の手撒き散布を実施。 ・SCによるクマネズミの生息状況調査を実施。
					・チヂジマカタマイマイ、アナカタマイマイの個体数回復	巽-2	・チヂジマカタマイマイ、アナカタマイマイの野生復帰による補強の継続	環境省	B	・2020年度以降、補強の取組を継続しており、2024年は5月にアナカタマイマイ164個体、チヂジマカタマイマイ200個体の移植を実施 ・モニタリングでは移植幼貝の成熟、新規孵化幼貝を確認。
					・貝食性プラナリア類未侵入状態の維持	巽-3	・貝食性プラナリア類の侵入確認調査を定期的に実施	環境省	A	・プラナリア検出板による調査を実施。 ・プラナリア検出なし。
		②海鳥類の繁殖地を保全する。	・オーストンウミツバメ等の海鳥類	・クマネズミ	-	-	-	-	-	
兄島	①乾性低木林や岩上荒原植生等の固有植生を修復する。	・乾性低木林 ・乾性低木林と混在する岩上荒原植生	・モクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネム等の外来植物	・対象地域のうち合計3ha程度の範囲で在来樹の播種、植栽を実施	兄-1	・対象地域周辺に生育するシマシャリンバイやテリハハマボウ等の在来種の播種や実生苗の移植	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて弟島、兄島、母島、向島で播種、植栽を実施。	
				・島内に生育する国内希少野生植物の維持、回復	兄-2	・植物園等における系統保存の継続 ・希少植物保護増殖事業計画に基づく ①生育状況調査 ②生育環境の維持 ③生育環境の改善などによる株数の維持・増加	環境省	B	・モニタリングなどを継続して実施。コヘラナレン等個体数が増加している種もある。	
				・Cライン柵設置後の柵周辺の在来生態系の把握	兄-3	・5年毎に在来林、陸産貝類等のモニタリングの実施	東京都	A	・環境、希少種モニタリングを継続実施。（R7実施予定）	
				・中央台地上及び南部等対象地域のうち合計100ha程度の範囲の外来植物の排除を実施	兄-4	・モクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネム等の排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。	
	②固有陸産貝類の生息地を保全する。	・固有陸産貝類	・クマネズミ	-	-	-	-	-		
②固有陸産貝類の生息地を保全する。	・固有陸産貝類	・クマネズミ	・兄島全島におけるクマネズミの低密度化の維持	兄-5	・固有陸産貝類の生息状況調査 ・殺鼠剤等によるクマネズミの排除 ・クマネズミ防除技術の開発 ・クマネズミの生息状況調査	環境省	B	・2020年度末にヘリコプターによる殺鼠剤空中散布を実施して以降、クマネズミの生息密度が再び増加し、陸産貝類の食害が見られていたことから、2024年11月に殺鼠剤空中散布を実施。今後、駆除効果の確認やモニタリングを実施していく。		

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全										
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避										
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等
父島列島	兄島	③オガサワラハンミョウなどの固有昆虫類の生息地を保全する。	・オガサワラハンミョウ、トンボ類、ヒメカタゾウムシ類、カミキリ類、ハナバチ類等の固有昆虫類	・グリーンアノール	・固有昆虫類の重要保全地域における拠点防衛	兄-6	・指標種としている昆虫類の生息状況調査 ・グリーンアノールのトラップによる捕獲 ・グリーンアノールの探索、より効果的な防除技術等の開発 ・大丸山保全地域における囲い込み柵の設置	環境省	A	・昆虫類の生息状況調査とグリーンアノールのトラップによる捕獲を継続実施。 ・環境DNAを用いたグリーンアノールの探索技術、模型を用いた誘引技術等の開発を進めている。 ・大丸山保全地域における囲い込み柵を2024年度末に設置完了予定。設置後の維持管理や柵内へのグリーンアノール侵入状況の監視等を今後行っていく。
					・Dエリア（Cライン柵以西の兄島北西部）におけるグリーンアノールの侵入防止	兄-7	・グリーンアノールのトラップによるDエリア内の探索	環境省	A	・Dエリア内広域及びCライン柵直東部でトラップによる探索を実施し、検出されていない。
					・B,Cライン柵周辺の植生メンテナンス	兄-8	・B,Cライン柵の本体機能維持に関わる支障木の剪定、伐採等	林野庁	A	・B,Cラインの植生メンテナンスを実施。
					・Bライン柵等の機能維持	兄-9	・Bライン柵等の定期点検、補修	環境省	A	・台風等で破損した箇所を2023年度までに完了し、全線で機能を維持している。
					・Cライン柵の機能維持	兄-10	・Cライン柵の定期点検、補修	東京都	A	・定期点検、補修を実施し良好な状態を維持。
					・オガサワラハンミョウの個体数の回復	兄-11	・室内におけるオガサワラハンミョウの累代飼育、野生復帰の継続 ・オガサワラハンミョウの生息状況調査、生息環境改善	環境省	B	・累代飼育、野生復帰及び生息状況調査等を継続して実施しており、野生復帰実施地で個体数が回復。 ・兄島の定点観測地点の生息総数は依然として少なく、外来植物等減少要因への対策が課題。
					・固有トンボ類の個体群の維持	兄-12	・固有トンボ類の生息状況調査 ・人工トンボ池の維持管理の継続	環境省	A	・生息状況調査、トンボ池の維持管理を継続して実施している。
					・「グリーンアノール対策ロードマップ」に基づく各種対策の実施	兄-13	・ロードマップの策定、現況を踏まえた更新	環境省★ 林野庁 東京都 小笠原村	B	・2022年度末にロードマップの更新を行い、「グリーンアノール防除対策ロードマップ2023-2027」を策定。ロードマップに沿った各種対策を進めている。最終目標である根絶に向けた防除手法が得られていないことが課題。
	・外来リクヒモムシ	-	-	-	-	-	-	-		
	④アカガシラカラスバト等の鳥類やオガサワラオオコウモリの生息地を保全するとともに、他の地域の取組と併せて本種の安定的な生息を目指す。	・アカガシラカラスバト ・オガサワラノスリ ・オガサワラオオコウモリ ・オナガミズナギドリ	-	・アカガシラカラスバト及びオガサワラノスリ、オガサワラオオコウモリ等の生息状況の把握	兄-14	・生息状況モニタリングの継続	環境省	A	・アカガシラカラスバト及びオガサワラノスリは継続してモニタリングを実施している。	
	弟島	①ムニンヒメツバキ林等の固有植生を修復する。	・ムニンヒメツバキ林等の在来植生 ・オガサワラアザミ、コウライシバ、ツルワダン等の在来草本	・モクマオウ、ガジュマル、タケ・ササ類等の外来植物	・弟島中北部において25ha程度の範囲での外来樹木の排除を実施	弟-1	・モクマオウ、シマグワ等の排除	林野庁	未実施	・弟島南端部海浜草地の駆除を優先して実施。
					・弟島北端部において合計5ha程度の範囲での外来樹木の排除を実施	弟-2	・モクマオウ、シマグワ等の排除	林野庁	未実施	・弟島南端部海浜草地の駆除を優先して実施。
					・弟島南端部海浜草地において合計2ha程度の範囲で外来樹木の排除を実施	弟-3	・モクマオウ等の排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。
					・都府地において合計69ha程度の範囲で外来樹木のメンテナンス排除を実施	弟-4	・モクマオウ、ギンネム、シマグワ、ガジュマル等の排除	東京都	A	・新規駆除は完了、継続してメンテナンス駆除実施。
・クマネズミ		-	-	-	-	-	-	-		
②オガサワラグワの弟島個体群を維持する。		・オガサワラグワの自生個体群	・シマグワ、ガジュマル、モクマオウ等の外来植物 ・クマネズミ	・オガサワラグワ自生地及び周辺でのネズミ被害防止 ・オガサワラグワ幼齢木の育成手法の確立	弟-5	・ネズミ対策のための自生地周辺でのBS、ネット設置等 ・オガサワラグワ自生地の生育環境の調査および環境整備の試行的実施	林野庁	A	・ネズミ対策のため弟島北部にてBSの設置、維持管理を実施。	
				・自生地個体群のリスク回避のために、島内にバックアップ地を形成	弟-6	・中央部において、自生個体群の種子由来の苗木育成及び植栽	東京都	A	・R6、R7年度 苗木の植栽を実施。	
	・オガサワラグワのシマグワとの交雑による遺伝的攪乱を防止			弟-7	・孫島のシマグワの排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。		

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全										
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避										
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等
父島列島	弟島	③固有陸産貝類の生息地を保全する。	・弟島の南部のヤマキサゴ類、エンザガイ類、中部のヤマキサゴ類等の固有陸産貝類 ・孫島のエンザガイ類	・クマネズミ ・貝食性コウガイビル (Bipalium muninense)	・弟島（および孫島）における固有陸産貝類の生息地の保全	弟-8	・固有陸産貝類の生息状況調査	環境省	A	・2024年度は調査未実施。（2023年度調査を実施し、生息状況に著しい変化がないことを確認）
						-	-	-	-	-
		④固有トンボ類等の生息地を保全する。	・トンボ類、ハナバチ類等の固有昆虫類	・シュロガヤツリ等の外来植物 ・グリーンアノール (未侵入) ・干ばつ	・固有トンボ類の個体群の維持・改善 ・グリーンアノール未侵入状態の維持	弟-9	・固有トンボ類の生息状況調査 ・人工トンボ池の維持管理の継続	環境省	B	・生息状況調査、トンボ池の維持管理を継続して実施している。
						弟-10	・沢や集水域での外来植物の排除の継続	環境省 東京都	B	・生息環境の確保のため、外来植物シュロガヤツリやアカギの駆除を継続して実施している。 ・外来植物の根絶手法が確立していない。
						弟-11	・グリーンアノールの侵入確認調査を定期的に実施	環境省	A	・2024年度に探索調査を実施し、侵入していないことが確認されている。
		⑤アカガシラカラスバト等の鳥類やオガサワラオオコウモリの生息地を保全するとともに、他の地域の取組と併せて本種の安定的な生息を目指す。	・アカガシラカラスバト ・オガサワラノスリ ・オガサワラオオコウモリ	・アカガシラカラスバト及びオガサワラノスリ、オガサワラオオコウモリ等の生息状況の把握	弟-12	・生息状況モニタリングの継続	環境省	B	・アカガシラカラスバト及びオガサワラノスリは継続してモニタリングを実施している。	
					弟-13	・雛への足環付けによるモニタリング	東京都	A	・クロアシアホウドリの足環付け (1羽/R06実績)	
	⑥弟島の海鳥類の繁殖地を保全する。	・クロアシアホウドリ ・オナガミズナギドリ	・クマネズミ	弟-14	・雛への足環付けによるモニタリング	東京都	A	・クロアシアホウドリの足環付け (18羽/R06実績)		
				-	-	-	-	-		
	⑦孫島の海鳥類の繁殖地を保全する。	・クロアシアホウドリ ・オナガミズナギドリ	・シロツブ ・クマネズミ	-	-	-	-	-		
				-	-	-	-	-		
	西島	①固有陸産貝類や固有昆虫類等の生息に配慮しながら、在来植生への転換を目指す。	・オガサワラアザミなどの固有植物 ・ヤマキサゴ類、エンザガイ類等の小型の固有陸産貝類 ・甲虫類やハナバチ類、トンボ類等の固有昆虫類	・モクマオウ、ギンネム、シマサルスベリ、ソウシジュ等の外来植物 ・民間団体などと協働・連携して森林生態系の修復	西-1	・民間団体と協定（西島の固有森林生態系修復と保全の森）を結び、植生調査、外来植物の排除、トンボ池の設置・メンテナンス、各種モニタリング等を実施	林野庁	A	・外来植物の駆除を実施。	
					西-2	・固有陸産貝類の生息状況調査 ・ベイトステーションの設置等によるクマネズミの低密度状態の維持 ・クマネズミの生息状況調査 ・新たなネズミ排除技術の検討・試行	環境省	A	・BSによる対策、カメラ設置による生息状況調査を実施。 ・2024年11月にヘリコプターによる殺鼠剤空中散布を実施。	
					西-3	・人工トンボ池の維持管理の継続 ・グリーンアノールの侵入確認調査の実施	環境省	B	・トンボ池の維持管理を継続して実施している。 ・グリーンアノール探索調査は2017年度以降、実施していない。次年度実施予定。	
②アカガシラカラスバト等の鳥類やオガサワラオオコウモリの生息地を保全するとともに、他の地域の取組と併せて本種の安定的な生息を目指す。		・アカガシラカラスバト ・オガサワラノスリ ・オガサワラオオコウモリ ・オナガミズナギドリ等の海鳥類	・アカガシラカラスバト及びオガサワラノスリ等の生息状況の把握	西-4	・生息状況モニタリングの継続	環境省	B	・アカガシラカラスバトは継続してモニタリングを実施している。		
	-			-	-	-	-			

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全											
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避											
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等	
父島列島	東島	①固有陸産貝類等の生息に配慮しながら、在来植生への転換を目指す。	・ヒトハノミガイ、ハタイエンザガイ等の小型の固有陸産貝類	・クマネズミ（根絶達成）	・固有陸産貝類の個体数維持	東-1	・固有陸産貝類の生息状況調査 ・陸産貝類へのネズミ食害状況調査	環境省	B	・2024年度は調査未実施。（2022年度調査を実施し、生息状況に著しい変化がないことを確認）	
			・オオハマギキョウ等の固有植物	・ギンネム等の外来植物 ・シロツブ	-	-	-	-	-	-	
	東島	②海鳥類の繁殖地を保全する。	・セグロミズナギドリ、オーストンウミツバメ、オガサワラヒメミズナギドリ、アナドリ等の海鳥類	・ギンネム等の外来植物 ・シロツブ	・民間団体などと協働・連携して海鳥類繁殖環境の修復	東-2	・民間団体と協定（東島森林性海鳥の地）を結び、海鳥繁殖環境モニタリング、森林内における外来樹種の修復実験等を実施	林野庁	A	・海鳥繁殖環境モニタリング、海鳥営巣地の環境整備を実施。	
			-	-	-	-	-	-	-		
	南島	①石灰岩地の海岸植生を保全する。	・オガサワラアザミ、ツルワダン、アツバクコ、イソマツ、コハマジンチョウ、クサトベラ、モンパノキ等の海岸植生	・シンクリノイガ等の外来植物 ・クマネズミ	・海岸植生の回復	南-1	・草本類を含む外来植物排除の継続	東京都	A	・駆除継続。ドローンを活用した植生の経年変化を調査実施。	
				・グリーンアノール（未侵入）	・グリーンアノール未侵入状態の維持	南-2	・グリーンアノールの侵入確認調査を定期的に実施	環境省	B	・2024年4月に南島鮫池付近でグリーンアノール1個体が目視確認されたため、関係機関合同で5～6月と9～10月に南島全域でトラップを集中的に設置して探索を実施。少なくとも極低密度状態であることが確認された。再侵入の防止が課題。	
			・ハナバチ類等の固有訪花性昆虫	・シロツブ ・セイヨウミツバチ	-	-	-	-	-	-	
		南島	②海鳥類の繁殖地を保全する。	・オガサワラアザミ、ツルワダン等の海鳥類	・クマネズミ	・外来種による海鳥類への繁殖影響の軽減	南-3	・クマネズミのモニタリング及び排除の継続	東京都	B	・ネズミが確認されたため、捕獲・駆除継続。
				・オガサワラヒメミズナギドリ、セグロミズナギドリ、シロハラミズナギドリ等のより固有性の高い海鳥類	・シロツブ	-	-	-	-	-	-
			南島	③固有陸産貝類の個体群再生を目指す。	・チヂマカタマイマイ、アナカタマイマイ等の固有陸産貝類	・クマネズミ ・貝食性プラナリア類（未侵入）	・固有陸産貝類の再導入手法の確立	南-4	・再導入手法確立に向けた試行、試行結果を踏まえた方針の検討	環境省	B
・ポニンスナガイ、クビキレガイ	・ツヤオオズアリ（未侵入）	-			-	-	-	-	-		
母島列島	母島	①湿性高木林、モクタチバナ林、母島列島型乾性低木林及び雲霧帯のワダンノキ群落等の固有植生を修復する。	・石門一帯の湿性高木林、主稜部雲霧帯のワダンノキ群落、中北部のモクタチバナ林・ムニンヒメツバキ林等の湿性高木林 ・南崎地域や東山の母島列島型乾性低木林 ・タイヨウフウトウカズラ、セキモンノキ、オガサワラグワ、ヒメタニワタリ、ワダンノキ、ホシツルラン、セキモンウライソウ等の固有・希少植物	・アカギ、モクマオウ、ギンネム等の外来植物 ・クマネズミ、ドブネズミ	・島内に生育する国内希少野生植物の個体数の維持、回復	母-1	・植物園等における系統保存の継続 ・希少植物保護増殖事業計画等に基づく ①生育状況調査 ②生育環境の維持 ③播種などによる株数の維持・増加	環境省	B	・モニタリングなど継続して実施している。株数が減少している種（タイヨウフウトウカズラ等）や、野生株が消失してしまった種（ホシツルラン）もある。	
					・固有植生にとって良好な生育環境の維持	母-2	・アカギ等の外来植物排除 ①再侵入の防止 ②在来植生モニタリング	環境省	A	・継続して駆除を実施。	
					・希少野生植物の個体数及び生育状況の把握と生育環境の整備	母-3	・現存する個体のモニタリング ・希少野生植物を被圧している周辺植物の剪定等による光環境改善等の生育環境の整備等	林野庁	A	・現存する個体のモニタリングを継続	
					・オガサワラグワの幼木の育成手法の検討	母-4	・オガサワラグワ自生地の生育環境の調査および環境整備の試行的実施	林野庁	B	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。 ・接ぎ木による苗木の作成を試行的に実施。	
					・石門周辺において合計50ha程度の外来樹木の排除を実施	母-5	・アカギ等の排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。	
					・桑ノ木山周辺において合計30ha程度の外来樹木の排除を実施	母-6	・アカギ等の排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。	
					・乳房山周辺において合計4ha程度の外来樹木の排除を実施	母-7	・アカギ等の排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。	
					・南崎周辺において5ha程度の外来種排除を実施	母-8	・モクマオウ、ギンネム等の外来植物の排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。	
					・指定ルート上の外来種の拡散防止	母-9	・指定ルート等の入口に外来種除去装置の設置、管理 ・指定ルート沿いの外来種の排除を状況に合わせて適宜実施	林野庁	A	・外来種除去装置の維持管理 ・指定ルート沿いの外来種駆除の実施	
					・気候変動	-	-	-	-	-	-

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全										
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避										
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等
母島列島	母島	②固有陸産貝類の絶滅を回避する。	・西台、東崎、南崎のカタマイマイ類 ・雲霧林等に生息するカタマイマイ類、オカモノアラガイ類、ヤマキサゴ類、キビオカチグサ近縁種等	・モクマオウ、ギンネム等の外来植物 ・ツヤオオズアリ ・エリマキコウガイビル ・アジアベッコウマイマイ ・貝食性プラナリア類（未侵入） ・外来アリ類（未侵入）	・固有陸産貝類の生息環境の維持	母-10	・モクマオウ、ギンネム等の外来植物の排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。
					・固有陸産貝類の生息密度の増加	母-11	・固有陸産貝類生息状況の継続調査 ・室内における累代飼育の継続により系統を維持 ・室内飼育技術の確立 ・補強、再導入等の検討、実施	環境省	A	・継続して生息状況調査を実施している。 ・野外の生息状況が危機的な一部の種において飼育繁殖技術開発のための室内飼育及び個体の移植を試行。さらに一部の種では、島外施設（水族館）での分散飼育を開始。
					・固有陸産貝類の脅威となる外来種の侵入・拡散防止、排除	母-12	・南崎におけるツヤオオズアリの排除 ・アリ類の生息状況調査	環境省	A	・継続して駆除、土壌生物等の生息状況調査を実施している。
						母-13	・北港周辺のツヤオオズアリの排除及びモニタリング	東京都	C	・個体が再確認されたためベイト剤設置を継続しているが、従来の手法では十分にモニタリングできておらず、手法見直しが必要。
						母-14	・集落・農地等でのツヤオオズアリ防除対策の実施	小笠原村	A	・農地等3箇所防除完了 ・中ノ平草木置場周辺で令和5年度から防除対策中
						母-15	・エリマキコウガイビルの効果的な排除方法、低密度化の技術開発の検討	環境省	B	・飼育実験等により基礎的な生態情報の収集を実施（2022年度まで）。2024年度以降は環境省の環境省の競争的研究資金（環境研究総合推進費）において技術開発に関する研究が始まっている。
						母-16	・アジアベッコウマイマイ防除対策の実施	環境省★小笠原村	C	・母島北部で跳躍分布が確認され、対策を進めているが、局所的であっても根絶が達成できていない状況。集落等においては、2023年度に改良した捕獲用トラップ等を活用して防除をいっそう強化しており、併せて村民への注意喚起を行って島内拡散防止を図っている。 ・集落大発生時にトラップを設置し、公衆衛生被害を低減 ・生息範囲の南端（中ノ平草木置場周辺）にて拡散防止のために防除対策中
					母-17	・未侵入の貝食性プラナリア類の侵入確認調査を定期的に実施	環境省	B	・土のう調査や陸貝調査時の目視確認によりモニタリングを継続している。	
					・クマネズミ、ドブネズミ	-	-	-	-	-
					母島	③固有昆虫類の生息地を保全する。	・石門地域、中北部地域及び南崎地域のオガサワラシジミ、オガサワラセセリ、ハナダカトンボ等の固有昆虫類	・アカギ、シュロガヤツリ、ボトス等の外来植物 ・グリーンアノール	・自生食餌木の開花・結実状況の改善（～2023年度まで） ・オガサワラシジミの生息状況確認	母-18
	・オガサワラセセリの個体数維持	母-19	・オガサワラセセリの生息状況調査 ・繁殖地周辺のアノール防除の手法検討、グリーンアノールの排除	環境省					B	・モニタリングを継続して実施。 ・母島島内の草地環境において、グリーンアノールの粘着トラップを設置し、防除を実施するとともに、効率的な防除手法を検討している。
	・固有トンボ類の個体群（2種）の個体数維持	母-20	・固有トンボ類生息状況モニタリングの継続 ・アカギ排除などによる生息環境の維持、改善	環境省					B	・モニタリングを継続して実施。 ・主要河川流域で外来植物の駆除を行い、固有トンボ生息環境の改善を進めている。 ・2021年以降、ハナダカトンボでは比較的良好な発生が記録されているが、気象条件等にも左右されやすく安定状態とは言えない。
	・民間団体などと協働・連携してオガサワラシジミの生育環境の改善	母-21	・民間団体と協定（母島〇シジミ出合いの森）を結び、モニタリング調査、外来植物の排除等を実施	林野庁					C	・2023年度末をもって協定を終了した。
	・新夕日ヶ丘におけるグリーンアノールの影響を排除した固有昆虫類の生息環境の維持（約2ha）	母-22	・グリーンアノール防除機能の維持 ・グリーンアノールの排除 ・固有昆虫類の生息状況調査 ・日常的に開かれた普及啓発の場として活用	環境省					A	・新夕日ヶ丘自然再生区におけるグリーンアノールの生息密度は低密度状態に保たれている。 ・グリーンアノール防除柵が老朽化していることから、再整備工事に着手。2024年度中に都道沿いの一部区間を改修する予定で、2025年度以降に全区間の再整備を目指す。 ・新夕日ヶ丘自然再生区において島内の子供を主な対象とした自然体験イベントを開催。
	・外来リクヒムムシ ・オオヒキガエル ・干ばつによる水枯れ	-	-	-					-	-

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全														
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避														
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等				
母島列島	母島	④アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワ等の鳥類やオガサワラオオコウモリの生息地を保全するとともに、他の地域の取組と併せて安定的な生息を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> アカガシラカラスバト オガサワラノスリ オガサワラカワラヒワ カツオドリやオナガミズナギドリ等の海鳥類 オガサワラオオコウモリ 	<ul style="list-style-type: none"> ノネコ バードストライク、農地等での絡まり事故等の人の社会活動との軋轢 	・アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリを小笠原諸島全体で安定的な個体数まで増加	母-23	<ul style="list-style-type: none"> アカガシラカラスバト個体数推定方法及び評価方法の検討 アカガシラカラスバト保護増殖事業計画に基づく生息状況の把握 オガサワラオオコウモリ保護増殖事業計画に基づく生息状況の把握 山間地におけるノネコの捕獲 ノネコ捕獲技術の向上 ノネコ以外のアカガシラカラスバト減少要因の把握、対応の検討 	環境省 林野庁	B	<ul style="list-style-type: none"> 希少鳥類保護管理対策調査事業で石門にてセンサーカメラによる調査を実施。 継続的に生息状況のモニタリングを実施 アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワの生態観察調査等を実施。特にオガサワラカワラヒワについては、関係管理機関と連携し対策を実施中。 生息状況とねぐら位置に関するモニタリングを実施した。（オガサワラオオコウモリ） 				
					母-24	・傷病鳥獣対応	東京都	A	・傷病鳥獣の保護を行う東京都鳥獣保護管理員を配置するとともに、保護した個体の一時飼養を実施。					
					母-25	・集落・農地におけるノネコ捕獲	小笠原村	A	<ul style="list-style-type: none"> 山域から集落・農地に流入したノネコが定着する恐れがある場合は適宜カゴわなを設置し捕獲 年180日程度の集落のネコモニタリングを実施 					
					母-26	・アカガシラカラスバトの動物園における生息域外保全個体の維持	東京都	A	・繁殖の取組みと飼育技術向上を継続中。					
					母-27	・保護増殖に必要な施設の構築及び保護増殖の実施	東京都	C	・保護増殖施設の構築に努めているが、契約不調により構築や保護増殖実施に至っておらず、事業スケジュールの見直しが必要。					
					母-28	・オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却	環境省	B	<ul style="list-style-type: none"> 目撃情報の集約、共有を実施。 属島（姉島・妹島）に人口給餌場を設置。 各島でネズミを捕獲し、島間移動解析を実施中。 母島南部地域でのノネコ捕獲を継続。モニタリング用カメラに水場を併設し、オガサワラカワラヒワの飛来状況を確認。 					
					母-29	・南崎におけるノネコの影響を排除した海鳥の繁殖地の維持（約2ha）	環境省	B	<ul style="list-style-type: none"> 継続してノネコの捕獲、ノネコ侵入防止柵の維持管理を実施、少数ながら継続的に海鳥の営巣を確認。 地形的に柵機能が及ばない箇所から柵内部へのノネコ侵入が確認されている。 					
					-	・クマネズミ、ドブネズミ	-	-	-					
					向島	①固有陸産貝類や固有鳥類等の生息に配慮しながら、母島列島型乾性低木林を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> 母島列島型乾性低木林 ムニンクロキ等の固有植物 カタマイマイ類、キセルモドキ類、キビオカチグサ類等の固有陸産貝類 ムコウジマヒメカタゾウムシ、固有カミキリ類、固有ハナバチ類、固有タマムシ類等の昆虫類 オガサワラカワラヒワ 	<ul style="list-style-type: none"> モクマオウ、ギンネム等の外来植物 グリーンアノール（未侵入） ドブネズミ 	・固有陸産貝類の個体数維持	向-1	・固有陸産貝類の生息状況調査	環境省	A	・令和5年度調査を実施し、生息状況に著しい変化がないことを確認。
									・向島において合計9ha程度の範囲で外来樹木の排除を実施	向-2	・モクマオウ、ギンネム等の排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。
・グリーンアノール未侵入状態の維持	向-3	・グリーンアノールの侵入確認調査を定期的に実施	環境省	A					・今年度調査を実施し、未侵入であることを確認。					
②オガサワラカワラヒワ等の鳥類の生息地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> オガサワラカワラヒワ アカガシラカラスバト 	<ul style="list-style-type: none"> ドブネズミ 台風 干ばつ 	・オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却	向-4		<ul style="list-style-type: none"> 試行的給餌の実施 ドブネズミの排除、調査、島間移動解析 オガサワラカワラヒワ個体数のモニタリング精度の向上 	環境省 林野庁 東京都	B	<ul style="list-style-type: none"> 関係管理機関と連携し対策を実施中。 希少鳥類保護管理対策調査事業でセンサーカメラ、センサス、標識調査の実施。標識調査には人工餌場の設置を行った。 					
			-	-		-	-	-						

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全										
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避										
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等
母島列島	姉島	①固有陸産貝類や固有鳥類等の生息に配慮しながら、母島列島型乾性低木林を保全する。	・カタマイマイ類、ヤマキサゴ類、キセルモドキ類等の固有陸産貝類 ・オガサワラカワラヒワ	・ドブネズミ	・固有陸産貝類の個体数維持	姉-1	・固有陸産貝類の生息状況調査	環境省	A	・今年度は調査未実施。（令和4年度実施し、生息状況に著しい変化がないことを確認）
			・台地上の母島列島型乾性低木林 ・シマムロ、オオハマギキョウ、ヒメマサキ等の固有植物 ・アネジマヒメカタソウムシ等の固有昆虫類	・モクマオウ等の外来植物 ・グリーンアノール（未侵入）	-	-	-	-	-	
		②オガサワラカワラヒワ等の鳥類の生息地を保全する。	・オガサワラカワラヒワ	・ドブネズミ	・オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却	姉-2	・ドブネズミの排除、調査、島間移動解析 ・オガサワラカワラヒワ個体数のモニタリング精度の向上	環境省 林野庁 東京都	B	・各島でネズミを捕獲し、島間移動解析を実施中。（母-28に同じ） ・属島（姉島・妹島）に人口給餌場を設置。（母-28に同じ） ・希少鳥類保護管理対策調査事業でセンサーカメラ、センサス、標識調査の実施。 ・都分担期間での調査終了し、環境省へ引継ぎ
				・台風 ・干ばつ	-	-	-	-	-	
	③海鳥類の繁殖地を保全する。	・クロアシアホウドリ		・姉島南鳥島のアホウドリ類の繁殖地と繁殖数の把握	姉-3	・雛への足環付けによるモニタリング	東京都	A	・クロアシアホウドリの足環付け（6羽/R06年度）	
	妹島	①固有陸産貝類や固有鳥類等の生息に配慮しながら、母島列島型乾性低木林を保全する。	・シマイスノキやシマムロ、タチテンノウメ等の母島列島型乾性低木林 ・ヘラナレン、ユズリハワダン、シマカコソウ等の固有植物 ・カタマイマイ類、エンザガイ類、ヤマキサゴ類、キセルモドキ類等の固有陸産貝類 ・オガサワラカワラヒワ	・モクマオウ、ギンネム等の外来植物	・固有陸産貝類の個体数維持	妹-1	・固有陸産貝類の生息状況調査	環境省	A	・今年度は調査未実施。（令和3年度実施し、生息状況に著しい変化がないことを確認）
					・対象地域のうち合計2ha程度の範囲で外来樹木の排除を実施	妹-2	・モクマオウ、ギンネム等の排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。
			・オガサワラビロウドカミキリ等の固有昆虫類	・グリーンアノール（未侵入）	-	-	-	-	-	
		②オガサワラカワラヒワ等の鳥類の生息地を保全する。	・オガサワラカワラヒワ	・ドブネズミ	・オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却	妹-3	・ドブネズミの排除、調査、島間移動解析 ・オガサワラカワラヒワ個体数のモニタリング精度の向上	環境省 林野庁 東京都	B	・各島でネズミを捕獲し、島間移動解析を実施中。（母-28に同じ） ・属島（姉島・妹島）に人口給餌場を設置。（母-28に同じ） ・希少鳥類保護管理対策調査事業でセンサーカメラ、センサス、標識調査の実施。
				・台風 ・干ばつ	-	-	-	-	-	
③妹島鳥島の海鳥類の繁殖地を保全する。		・クロアシアホウドリ		・妹島鳥島のアホウドリ類の営巣地と繁殖数の把握	妹-4	・雛への足環付けによるモニタリング	東京都	A	・クロアシアホウドリの足環付け（6羽/R06年度）	

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全										
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避										
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等
母島列島	姪島	①固有陸産貝類や固有鳥類等の生息に配慮しながら、母島列島型乾性低木林を保全する。	・カタマイマイ類やキセルモドキ類等の固有陸産貝類 ・オガサワラカワラヒワ	・ギンネム等の外来植物	・固有陸産貝類の個体数維持	姪-1	・固有陸産貝類の生息状況調査	環境省	A	・今年度調査を実施し、一部の地点でややネズミ食害の増加を確認するも、生息状況に著しい変化がないことを確認。
			・母島列島型乾性低木林 ・シマムロ、オオハマギキョウ、ヘラナレン等の固有植物 ・シマアカネやオガサワライトトンボ等の固有昆虫類	・グリーンアノール（未侵入）	-	-	-	-	-	
		②オガサワラカワラヒワ等の鳥類の生息地を保全する。	・オガサワラカワラヒワ	・ドブネズミ	・オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却	姪-2	・ドブネズミの排除、調査、島間移動解析 ・オガサワラカワラヒワ個体数のモニタリング精度の向上	環境省 林野庁 東京都	B	・各島でネズミを捕獲し、島間移動解析を実施中。（母-28に同じ） ・希少鳥類保護管理対策調査事業でセンサーカメラ、センサス、標識調査の実施。 ・ドブネズミの排除継続中（都分担 R7年度末まで）
	平島	①固有陸産貝類や固有鳥類等の生息に配慮しながら、在来植生を保全する。	・オガサワラススキ、オオハマギキョウ等の固有植物 ・エンザガイ類等の小型の固有陸産貝類 ・オガサワラセセリ等の固有昆虫類 ・オガサワラカワラヒワ	・モクマオウやギンネム、ガジュマル等の外来植物	・固有陸産貝類の個体数維持	平-1	・固有陸産貝類の生息状況調査	環境省	A	・今年度は調査未実施。（令和4年度に実施し、生息状況に著しい変化がないことを確認）
				・グリーンアノール（未侵入）	・対象地域のうち合計3ha程度の範囲で外来樹木の排除を実施	平-2	・ガジュマル、ギンネムの排除	林野庁	A	・小笠原諸島固有森林生態系保全・修復等請負事業にて外来植物駆除を実施。
				・グリーンアノール未侵入状態の維持	・グリーンアノール未侵入状態の維持	平-3	・グリーンアノールの侵入確認調査を定期的に実施	環境省	A	・2021年度に調査を実施し、未侵入であることを確認。
		②オガサワラカワラヒワ等の鳥類の生息地を保全する。	・オガサワラカワラヒワ	・ドブネズミ	・オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却	平-4	・ドブネズミの排除・調査、島間移動解析 ・オガサワラカワラヒワ個体数のモニタリング精度の向上	環境省 林野庁 小笠原村	A	・各島でネズミを捕獲し、島間移動解析を実施中。（母-28に同じ） ・希少鳥類保護管理対策調査事業でセンサーカメラ、センサス、標識調査の実施。 ・令和4年度から防除対策中。令和5年10月以降ネズミ確認無し。 ・平島小属島でも令和5年度から防除対策中。殺鼠剤散布以降ネズミ確認無し。
		・台風 ・干ばつ	-	-	-	-	-	-		
	蟹島	①固有昆虫類等の生息に配慮しながら、モクダチバナ林を中心とした在来植生を保全する。	・モクダチバナ林やシマイスノキ等を含む乾性低木林 ・オガサワラアザミ、シマザクラ、ハマゴウ等の海岸植生 ・ノミガイ類、キビオカチグサ類、スナガイ類等の小型の固有陸産貝類 ・ムコジマトラカミキリやツマベニタマシ（蟹島亜種）、ハナバチ類等の固有昆虫類	・ギンネム、シチヘンゲ、タケ・ササ類等の外来植物	・在来生態系の保全・回復状況の把握	蟹-1	・植生等の在来生態系の回復状況モニタリング	東京都	A	・ギンネム及びランタナ駆除を継続中。
				・ギンネム等による在来生態系への影響を極小化 ・その他侵略的外来植物の低密度化	・ギンネム、シチヘンゲ等の排除作業の継続	蟹-2	・ギンネム、シチヘンゲ等の排除作業の継続	東京都	A	・ギンネム及びランタナ駆除を継続中。
				・シロツブ	-	-	-	-	-	

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全											
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避											
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等	
小笠原列島	賀島	②海鳥類の繁殖地を保全する。	・アホウドリ、コアホウドリ、クロアシアホウドリ		・アホウドリ類の繁殖地と繁殖数の把握	賀-3	・繁殖地の環境整備と雛への足環付けによるモニタリング	東京都	A	・外来種駆除等の実施により繁殖地の環境改善 ・クロアシアホウドリの足環付け(273羽/R06年度) ・コアホウドリの足環付け(23羽/R06年度) ・アホウドリの足環付け(3羽/R06年度) ※足環付け数は賀島島島含む	
					・アホウドリの飛来及び繁殖の継続	賀-4	・飛来及び繁殖状況のモニタリング	環境省 東京都	A	・モニタリング継続実施 (委託事業はR6年度で終了。R7以降は直営のみでの実施予定。)	
			・オナガミズナギドリ、アナドリ等の海鳥類	・ギンネム、シチヘンゲ、タケ・ササ類等の外来植物 ・シロツブ	-	-	-	-	-	-	
	北之島	②海鳥類の繁殖地を保全する。	①自然草原等の在来植物を維持する。	・オガサワラアザミ等の在来植物	・人為的かく乱	-	-	-	-	-	-
			・オナガミズナギドリ、アナドリ		・海鳥の生息・繁殖状況等の把握	北-1	・オナガミズナギドリ、カツオドリの生息状況調査を定期的 に実施（モニタリングサイト1000海鳥調査にて）	環境省	未実施		
	媒島	①固有陸産貝類や固有昆虫類等の生息に配慮しながら、モクダチバナを含む在来植物を回復させる。		・モクダチバナ林を中心とした在来林（屏風山） ・媒島固有のカタマイマイ類、エンザガイ類 ・ヤマキサゴ類やヒラセキセルモドキ、ノミガイ類等の固有陸産貝類 ・オガサワラチビクワガタ賀島列島亜種、ツチヒメカタゾウムシ等の固有昆虫類	・土壌流出 ・ギンネム、タケ・ササ類等の外来植物	・在来生態系の回復状況の把握	媒-1	・植生等の在来生態系の回復状況モニタリング	東京都	A	・ネズミについては根絶したため生態系モニタリングを継続実施。
						・土砂流出抑制、植栽基盤の確保 ・裸地化区域の緑化推進	媒-2	・土砂流出防止堰堤等の設置・修繕 ・在来樹木等による緑化工の検討	東京都	A	・適時、修繕実施
						・屏風山植生管理実施計画に基づいた植生回復の実施	媒-3	・陸産貝類等の保全対象種の分布把握 ・タケ・ササ類、ギンネム等の排除 ・植生回復状況に応じた対策の検討（植栽等）	東京都	A	・タケ・ササ類、ギンネム等を部分的に駆除し在来種の播種を試行
						・オオハマギキョウ等の固有植物	-	-	-	-	-
		②海鳥類の繁殖地を保全する。	・アホウドリ、クロアシアホウドリ		・アホウドリ類の繁殖地と繁殖数の把握	媒-4	・雛への足環付けによるモニタリング	東京都	A	・クロアシアホウドリの足環付け(657羽/R06年度)	
	・オナガミズナギドリ、オガサワラヒメミズナギドリ、カツオドリ、アナドリ等の海鳥類			-	-	-	-	-	-		

■資料2-2別添1 世界自然遺産小笠原諸島管理計画アクションプランに掲げた取組の状況（2024年度）

(1) 生態系の保全											
1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避											
列島名	島名	長期目標	主な保全対象	主な脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関	進捗状況	対応状況等	
聟島列島	嫁島	①固有陸産貝類等の生態に配慮しながら、在来植生を保全する。	・コゴメビエ等の固有植物 ・ヤマキサゴ類やノミガイ類等の小型の固有陸産貝類	・タケ・ササ類等の外来植物	・在来生態系の回復状況の把握	嫁-1	・植生等の在来生態系の回復状況モニタリング	東京都	A	・ネズミについては根絶したため生態系モニタリングを継続実施。	
					・タケ・ササ類による在来生態系への影響を極小化	嫁-2	・タケ・ササ類の排除の継続	東京都	A	・タケ・ササ類の駆除を継続実施。	
		②海鳥類の繁殖地を保全する。	・スジヒメカタソウムシ等の固有昆虫類		-	-	-	-	-	-	-
			・アホウドリ、コアホウドリ、クロアシアホウドリ ・オナガミズナギドリ等の海鳥類		・アホウドリ類の繁殖地と繁殖数の把握	嫁-3	・雛への足環付けによるモニタリング	東京都	A	・クロアシアホウドリの足環付け(543羽/R06年度)	
火山列島・その他	北硫黄島	①海洋島特有の生態系を保全する。	・歴史の浅い海洋島特有の生態系	・シチヘンゲ等の外来植物 ・クマネズミ等の外来動物	・現況把握	北硫黄-1	・現況調査を実施（2025年頃）	東京都	A	・R6事前調査実施。 ・R7海域調査実施予定。	
					-	-	-	-	-	-	
	南硫黄島	①原生の姿を残す海洋島特有の生態系を保全する。	・歴史の浅い海洋島特有の生態系	・人為的かく乱 ・シンクリノイガ等の外来植物	・現況把握	南硫黄-1	・現況調査を実施（2027年頃）	東京都	A	・R8事前調査実施予定。 ・R9年本調査実施予定。	
					-	-	-	-	-	-	
	西之島	①海洋島形成過程の初期にある西之島の生態系を人為的かく乱がないよう保全する。	・歴史の浅い海洋島特有の生態系 ・原生状態の始原生態系における成立プロセス	・科学的価値を整理し、必要な保護担保措置や管理方法の決定	・外来種 ・人為的かく乱	西之島-1	・総合学術調査の実施による西之島の科学的価値の再整理 ・保護担保措置や管理方法の検討	環境省	B	・年1回程度、環境省事業による総合学術調査を実施中。 ・環境省の競争的研究資金において、2024年度から西之島における地形・地質の知見の収集に係る研究プロジェクト（3年間）を新たに2件採択。 ・保護担保措置や管理方法について、引き続き検討を進めていく。	
					-	-	-	-	-	-	
海域	①海域公園地区を中心とした海域の生態系を保全する。			・サンゴ礁生態系等の保全に資する基礎情報の把握	海域-1	・沿岸域における水温変動モニタリング、サンゴ群集の健全度の確認	環境省	A	・令和3年度に作成したモニタリング計画に沿って父・母各列島で水温計測を継続。 ・母島列島向島近海でのオニヒトデ発生を受けて今年度駆除を計画。		
				・海岸漂着物等の対策を通じた良好な海岸景観・環境の保全	海域-2	・地域関係者と連携した海岸清掃の実施・推進	環境省 林野庁 東京都 小笠原村	A	・林野庁が管理者となっている重点海岸にて海岸清掃を実施 ・地域計画を定め小笠原村や地域のボランティアと協力し、海岸の清掃活動に取り組んでいる。 ・地域計画に基づく役割分担のもと、海岸管理者をはじめ関係主体間の連携により海岸漂着物対策を実施		
				・海域の生態系	・気候変動	-	-	-	-	-	

	& \$ & ' & \$ & ,	No.				
		! %			A	
		! &			B	& \$ & ' & \$ & (
		! '			B	& \$ & '
		! (B	
		!)			B	& \$ & (%&
		! *			A	* % \$
		! +			A	
		! ,			B	* % *
		! -				
		! % \$ A @			B	
		! % %			A	
		! % &			A	
		! %	& \$ & '		A	
		! % (C	
		! %)			A	

